

## 所長の部屋



### 所長の健康アドバイス

#### 健診結果への対応 (19) 胸部X線検査

[2020年2月]

今回は胸部X線検査についてです。主に肺疾患を診断します。肺癌、肺結核などが主な対象疾患です。

肺癌患者は近年急増し、日本人の死亡原因としては全ての癌の中で1位です。特に喫煙者やそのご家族は要注意です。ただし胸部X線検査で異常ありと言われた人の中で、実際に肺癌が見つかるのは100人に1人以下で、精密検査の結果、異常なしと言われることが多いです。

肺結核患者は以前より減りましたが、日本はまだ他の先進国よりも頻度が高く、世界の中では中蔓延国です。通常は咳、痰（特に血痰）、微熱、寝汗、全身倦怠感などを伴いますが、高齢者では症状がはっきりしない場合も多いです。

その他にも多くの肺疾患がありますので、健診で異常ありと言われたらCT等の検査を受けてください。ここで注意が必要なのは、胸部X線写真には何でも写るとい点です。背中に膏薬を貼っていた、皮膚に大きなイボがある、などでも肺癌の疑いありと言われる場合があります。

X線検査を受ける人で、放射線被曝を恐れている人は多く、時々外来で質問を受けます。しかし胸部写真1枚を撮影する際の放射線量はごく僅かです。地球上に住んでいるだけでも、宇宙や地下からの放射線を年間1-2mSv程度浴びています。胸部写真1枚当たりの被曝量は0.06mSv程度なので、その数十分の一です。CT検査となると数mSvと、胸部写真の100倍前後の被曝量ですから、何度もCT検査を受けて年間50mSvを越えるのは避けたいですね。特に小児に対する頭部CTは、脳腫瘍の原因となり得ますので、必要な時のみにすべきです。

健診では胸部X線検査も受け、異常を指摘されたらすぐに医療機関を受診しましょう。

乙訓保健所長 時田 和彦

「所長の部屋」 バックナンバー・シリーズタイトル  
健康寿命を延ばす（メタボリック症候群についての話）  
がんを防ぐ（食道癌、胃癌、大腸癌の話）  
医者のお話（病院救急室の話）  
健康診断結果への対応（健診で異常値が出たときの話）  
健診で異常あり